

はびねすだより 11号

～南和地域の医療と健康に関する情報誌～



若き医師たち

今号の内容

- 1 南和の地域医療を支える医師を育てる
- 2 専門外来シリーズ第4弾 ～周術期等口腔機能管理外来～
- 3 チーム医療シリーズ第2弾 ～CKDチーム～
- 4 『総合診療科』『脳神経内科』に変わります。
- 5 医療コラム 冬の感染症
- 6 吉野病院からのお知らせ
- 7 五條病院からのお知らせ



南和の地域医療を支える医師を育てる

さる3月、厚生労働省より「**基幹型臨床研修病院**」の指定を受け、医師国家試験合格後に義務づけられている2年間の臨床研修を当院のプログラムにより実施できるようになりました。

「南和の医療は南和で守る」ためには、地域医療のリーダーとなる医師の確保がとても重要です。当院で研修している研修医は、地域医療に強い関心を持っており、将来の南和医療を支える医師に育ってくれるものとおおいに期待しています。

地域の皆さんが診療に来られたときや、入院されたときに、研修医にお会いになっているかもしれません。研修医は、必ず指導医・上級医とペアで診療にあたります。例えば、病棟では研修医が担当医になると、毎日、入院患者さんの様子を見に行き、指導医と相談して治療を進めます。

研修医は、日々とても熱心に知識と経験を吸収しようとしています。患者さんや家族の皆さんも彼らにとっては「師」であります。ぜひ、温かい目で接してくださいませよう、お願いいたします。



研修プログラムの1コマ：
研修医が救急外来で診察している様子



「基幹型臨床研修病院」とは？

医学部を卒業し、医師免許を取得した医師（研修医）が卒後2年間、基本的な診察能力を身につけるための法に基づく臨床研修を行う病院です。



レジデントデイ

研修医全員が集まって、1日中講師の先生方からレクチャーをうける勉強会です。



レジデントデイの様子

周術期等 口腔機能管理外来



専門外来シリーズ第4弾！

周術期等口腔機能管理とは全身麻酔による手術、ガン治療での化学療法や脳卒中など、急を要する治療のときにお口の歯科的管理を行い、お口の機能低下を予防することで手術後合併症リスクを低くさせる新しい診療科歯科連携の取り組みです。

近年ではお口の細菌による合併症の危険性が指摘されており、その影響は手術後感染、誤嚥性肺炎や人工関節置換後の感染など多岐にわたります。当院では平成28年7月から周術期口腔機能管理外来をはじめており、手術前口腔内診査、手術前後のお口の衛生管理・指導を行い、手術後合併症を予防しスムーズな退院を支援しています。また、全身麻酔では通常お口から管を通すため、歯の損傷、つめものや差し歯の脱離など、思わぬことが起こる場合があります。より安全な手術を受けていただくために歯列を保護する「マウスピース」の作成もできますので、興味がある方は主治医までご相談ください。



手術前口腔管理 風景



マウスピース（保護床）

周術期等口腔機能管理外来の流れ

入院前



・化学療法及び手術を実施することが決定

入院中



・化学療法

・手術

退院後



・診察



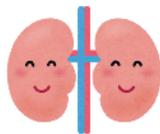
・口腔機能管理計画の策定、手術前の治療



・口腔粘膜炎の処置
・手術前後の口腔機能管理



・退院後は必要に応じてかかりつけ歯科診療所に紹介



(Chronic Kidney Disease : 慢性腎臓病)

CKD (Chronic Kidney Disease : 慢性腎臓病) とは、さまざまな原因で腎臓の働きが正常の60%未満に低下するか、タンパク尿が出るなどの腎臓の異常が3ヶ月以上続く状態をいい、症状が進行すると末期腎不全にいたり、人工透析や腎移植が必要となる病気です。わが国では1,330万人(成人の8人に1人)の患者さんがいると考えられ、新たな国民病ともいわれています。

当院では医師、看護師、社会福祉士、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士、理学療法士らでCKDチームを構成し、南和地域のみなさまのCKDの発症と、すでに発症された患者さんの悪化防止を目的に下記の取り組みを行っています。腎臓が気になる方は、ぜひご相談ください。

CKD教育入院スケジュール



患者会の様子

①腎臓病教室

年に4回開催し、そのうち1回は教育入院を経験された方を中心に患者会として開催。次年度4月以降の予定は、決定次第企業団のホームページに掲載します。

②CKD教育入院

3泊4日の日程でCKDについて集中的に学んでいただきます。右記のCKD教育入院スケジュールをご参照してください。

③健康出前講座

ご依頼があれば地域にでむき、説明・意見交換をさせていただきます。

| | 火 | 水 | 木 | 金 |
|-------|--|---|--|--|
| 検査 | | | ○血液・尿検査 ○畜尿検査 | |
| 教育・説明 | ○オリエンテーション ○13:00~ 医師から腎臓病について説明 (集団) 慢性腎不全の食事療法  | ○14:30~ 理学療法士から運動について説明 ○16:00~ 薬剤師からお薬について説明  | ○13:00~ 慢性腎不全に関するDVDを見ていただきます。続いて看護師から日常生活の注意点について説明  ○15:00~ 腎代替療法について 透析室の見学(臨床工学技士および透析看護師から説明) | ○主治医より退院前の説明(個人) ○アンケート記入  ○料金計算をさせていただきます。 その後午前中退院となります。 |
| | ○14:00~ 管理栄養士から食事について説明 (集団) ○16:00~ 社会福祉士より助成制度について説明 (集団) | ○16:30~ 臨床検査技師から検査結果の見方について説明 | ○管理栄養士から食事について説明 (個人) | |
| 安静 | 特に制限はありません。ただし、病院外に出るには許可が必要です。 | | | |
| 排泄 | 入院中の尿はためていただきます。(看護師より説明があります。) | | | |
| 清潔 | 入浴は可能です。各病棟で決められた時間にお風呂を使ってください。 | | | |

平成31年4月から下記のように診療科の名称変更します！

「総合内科」 → 『総合診療科』

「神経内科」 → 『脳神経内科』

おしらせ



どうして変わる？
どう変わる？



『総合診療科』は、日常遭遇することの多い疾病や訴えに対し、適切な初期対応と継続的な診療を提供いたします。スタッフには、へき地診療所での総合診療経験を有するメンバーが多く、入院診療中であっても退院後の地域での暮らしを視野に入れた医療を展開します。また、癌や難病にかかってしまった場合でも、住み慣れた自宅で自分らしく最期まで過ごせるよう、在宅訪問診療にもチカラを入れています。今後もみなさまの生命と健康に関わる幅広いニーズに対応したいと考えます。どうぞよろしくお願い致します。

総合診療科 部長 明石陽介

現在、神経内科の診療内容は、てんかんや認知症、脳卒中、頭痛と多彩です。少しでもみなさまにイメージをやすくしてもらうため日本神経学会の方針と同じく、当院も『脳神経内科』に変更致します。ぜひ気になるご症状がありましたら受診してください。

脳神経内科 医長 小原啓弥

医療コラム

冬の感染症



感染症内科/感染対策室 宇野 健司

冬の感染症として有名な微生物といえばインフルエンザとノロウイルスです。

インフルエンザは平均2日の潜伏期間のあと、熱、咳、のどの痛みや節々の痛みで発症します。お薬があり、治療により熱のある期間が短くなるといわれています。アルコールが有効ですので、市販のアルコール消毒薬で手を消毒しましょう。石けんによる手洗いも有効です。頻回のおうがいも有効です。家族でインフルエンザの人がいればマスクを着けてもらうようにするとウイルスを広げないこととなります。

ノロウイルスは平均1～2日の潜伏期間のあと、下痢、嘔吐、腹痛で発症します。熱をとまなうこともあります。ウイルスをやっつける根本的な薬はなく、主に対症療法となります。アルコールが無効なので、かからないようにするには石けんを使って手洗いをする必要があります。食べる前には必ず手洗いしましょう。ご家族がノロウイルス胃腸炎にかかった場合にはタオルやコップなどを分けて使う方がよいです。

寒い季節、冬のウイルスにかからないよう注意していきましょう。





臨床検査

患者さんの病状を正しく診断するために必要な検査を医師のもとに行っています。

検体検査

患者さんの血液、尿、便などさまざまな検体を分析して、健康状態や病気を調べています。

生体検査

心電図による心臓機能の検査や超音波診断装置を用いた検査などを行っています。

当院で検査していない項目は、外部委託検査も含め、南奈良総合医療センターへ検体を搬送し、迅速な結果報告を提供しています。



生化学分析免疫測定装置で血液検査



肺機能検査

臨床検査技師3名、うち2名は糖尿病療養指導士（CDEJ）の資格をもちています。血糖自己測定器の使い方や血糖コントロールに関して、ご質問ございましたら、お気軽にお声がけください。

五條病院から

4階療養病棟の増床について



平成30年11月1日から、6床増床し、26床になりました。



病室イメージ

五條病院では、より多くの患者さんに入院治療を受けていただけるよう、4階療養病棟のベッドを6床増床し、26床で運用しています。

南和地域においても、酸素療法や、頻回なたんの吸引、中心静脈栄養を要するなど、医療依存度の高い患者さんが増えています。

こうした医療動向をふまえ、福祉施設やご自宅での長期療養が困難な患者さんに、安心してご利用いただけるよう、医療保険が適用される医療療養病床を増床しました。

安心、安全な医療サービスを提供し、地域の皆さんのお役に立てる病院をめざしてまいりますので、ひきつづきご支援のほどお願いいたします。

救急センターからのお願い

南奈良総合医療センターの救急センターでは、救急車などで搬送された重症な方を最優先に診察するため、軽症な方の場合、診察をお待ち頂くことがあります。救急車以外で来院・受診される方は、事前に電話で問い合わせをしていただきますようお願いいたします。

【編集後記】

今回は、病院ならではの聞きなれない取り組みを中心にとりあげてみました。これからもできるだけわかりやすく、病院の取り組みをお伝えしていきますので、次号もお楽しみに。

(連絡先) 南奈良総合医療センター

〒638-8551

吉野郡大淀町大字福神8番1

電話: 0747-54-5000

吉野病院

〒639-3114

吉野郡吉野町大字丹治130番地の1

電話: 0746-32-4321

五條病院

〒637-8511

五條市野原西5丁目2番59号

電話: 0747-22-1112

南奈良看護専門学校

〒638-8561

吉野郡大淀町大字福神7番地の1

電話: 0747-54-5061